

西日本旅客鉄道株式会社
代表取締役社長 佐々木隆之 殿

2011年2月14日
日本共産党国会議員団近畿ブロック事務所
同 大阪府委員会
同 京都府委員会
同 兵庫県委員会
同 滋賀県委員会
同 奈良県委員会
同 和歌山県委員会

J R 西日本の安全対策や設備の改善を求める要望書

昨年12月17日にJR神戸線舞子駅において、停線中の車両の先頭同士の連結部から女性が転落し、非常停止ボタンが押されていたにもかかわらず、電車が発車したために死亡されるという痛ましい事故が発生しました。日本共産党は、JR西日本神戸支社に緊急の安全対策を求め、非常停止ボタンシステムの改善や転落防止柵の設置など一定の改善を得ることができました。しかし、改善はまだ「対症療法」的であり、舞子駅での事故は他の多くの駅でも同様の対策の必要性を示しています。

また、1月25日に、大畠章宏国土交通大臣が、ホームドアや可動式ホーム柵の整備をすすめる旨の決意を表明され、各事業者から整備目標の報告を受けるとされています。

そこで、日本共産党は、人命にかかわる重大な事故の根絶をめざして近畿2府4県のJR西日本にかかわる必要な安全上の課題を緊急に調査しました。ここに、JR西日本に対して、現段階で判明している課題について以下の安全対策や設備の改善を申し入れます。

記

共通する要望項目

- 1, ホームへの転落防止のために、ホームドアや可動式ホーム柵の整備目標を明確にして、少なくとも1日の乗降客が5000人以上の駅のホームには早急に設置すること。
- 2, ホームドアや可動式ホーム柵が設置されるまでの間の危険性を深く認識し、ホーム要員の配置、転落防止柵やモニター、転落感知マットの設置などを行うこと。特に、先頭車両同士の連結部分への転落防止柵の設置を急ぐこと。
- 3, 設置が義務づけられている車両の連結部分への転落防止ガードの設置を至急に行

うこと。先頭車両同士の連結部分にも転落防止ガードが設置できるよう技術を開発すること。

- 4, 万一転落した際の安全の保障としてホーム下に待避スペースを確保すること。
- 5, 非常停止ボタンは、停線中の車両の出発が抑止できるよう、新しいシステムに更新すること。
- 6, 障害者の要望をふまえ識別性の高い点字ブロックに改善するとともに、ホームの凹凸を平らに改修すること。

個別具体的な要望項目

- ・ J R久宝寺駅は、1日約26000人の乗降客でホームが混雑して危険な状況にあり、さらに急増が予想されるので、早急に転落防止柵を設置すること。
- ・ J R山科駅にホームの転落防止柵の設置及びホーム下の安全避難空間を確保すること。
- ・ J R八尾駅南口は、ラッシュ時以外は駅員が配置されておらず、高齢者や障害者にとって危険な状況にあるので、ラッシュ時以外も駅員を配置すること。また改札は南口も北口も車いすに対応していないので、早急に車いすが通れる改札に改善すること。
- ・ J R嵯峨野線太秦駅はホームが狭く危険であり、ホームを拡幅すること。当面、直ちに安全柵を設置すること。
- ・ J R南草津駅ではホームでの接触事故が発生しており、ホーム要員を増員すること。

- ・ J R京都線桜井村踏切（大阪府島本町）を拡幅すること。
- ・ J R嵯峨野線並河駅南側の踏切（京都府亀岡市）を拡幅すること。
- ・ J R神戸線勝負下踏切（兵庫県加古川市平岡町）を改善すること。
- ・ J R琵琶湖線堀上・日吉野（滋賀県近江八幡市）踏切、常楽寺踏切（滋賀県安土町）を拡幅すること。

以上